本当の中国が見えてくる

日本人妻の歯ぎしり
～小劉は宝貝（バオベイ）～

今月から急に仕事が忙しくなって疲れている。注文が増えたというありがたい話ではなく、従業員が減ったのだ。一昨年、ベテランの蘇さんが、奥さんに病気が見つかったことで、やむなく退職。その後やって来たのが小劉だった。その小劉が先月末にとうとう辞めてしまい、残った三人は自分の担当外の仕事が増え、慣れない作業に疲れているのだ。

小劉……彼は今までに会ったことのないような人だった。仕事ができる、できないということではなく46歳という年齢相応の生活経験がまるでなかったのだ。料理や掃除など、日常のことだけでなく、状況の説明や質問のしかたも、どこか要領を得ない。私が聞き取れないのかと思ったが、そうではないらしい。みんな彼と話す時は「えっ？　はっきり話して！」と言った。夏には、机の上に置きっぱなしにしていた昼食の残りを、翌日食べようとしたこともあった！

彼の家は、彼の両親と妻の四人暮らし。家事は全て両親がしてくれるらしい。生まれてこのかた一度も家を離れたことがないので、洗濯や買い物もしたことがない。空いた時間はゲームをするという。翌日に着る服や着替えは、妻が用意してくれる。彼の妻は江蘇省出身だ。それを聞いたみんなは、「やっぱり！　上海の女性は彼みたいな人と結婚するわけがない！」と、堂々と陰口を言った。上海の男性は基本、家事ができるのだ。ただ、小劉は性格は良かった。素直にみんなの言うことに従い、力のいる労働も、手が汚れる作業も嫌がらなかった。周りの叱責にも非難にも、一度も大きな声で反論したり、嫌な態度をとったりしたことがない。それに、パソコンにも詳しかったので、我々年配者はその点をありがたがった。

食品サンプルの仕事は、「食べ物を作る」ところに楽しさがあり、「実物以上の食品」を追求するところに意義があると、私は思っているが、もともと食べ物への関心が薄い人もいる。そんな人はこの仕事への関心も薄いのだろう。小劉はそのような人だった。彼の持ち場は「加工」。シリコン型に樹脂を流し入れ、オーブンで焼き、食品の形を作る部署だ。この時、案外難しいのが色の調合だ。下地の色が変だと、食べ物に見えない。彼はこの色の調合に苦戦した。パンが石膏のように白くなったり、セロリが青色になったりした。どうやら食べ物は、料理された物しか見たことがなかったらしい。片付けも掃除も苦手なので、彼の周りはすぐ汚れた。作業道具も作業台もオーブンも彼が触った物は何でも汚れた。オーブンからは汚れのせいで煙が出た。作業服は3着捨てた。洗濯が無理なほど汚してしまうからだ。お昼は、彼はいつもデリバリーを頼んだ。高くても安くても気にしなかった。自分の給料は全部自分で使っていいのだ。食べきれないほどの量が届いた時には、気前よくみんなに分けてくれた。生活にかかる費用、水道や電気代も両親が、衣服は妻が買ってくれる。妻の給料は彼の三倍なのだ！

周りのみんなは半部呆れ、半分心配し、「あんた、一生こんな生活はできないだろう、両親が亡くなったらどうするんだ？」と聞いた。彼は「大丈夫、妻は料理ができるから」と答え、みんなは更に呆れた。彼はまるで子どもなのだった。

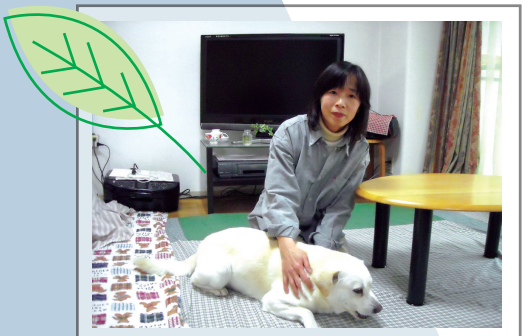
4月からようやく新しい人が入ると、昨日事務所から聞いた。39歳の男性だという。その人が小劉のような人ではないことを願っているが、今の時代、こんな子どものような大人は案外多いのかもしれない。

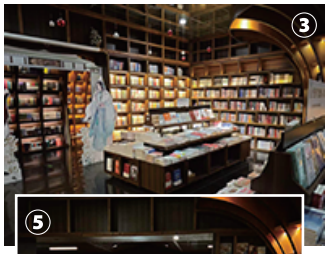
＊宝貝＝宝物・かわいい子・変な人（中日辞典　北京・商務印書館/小学館）

写真

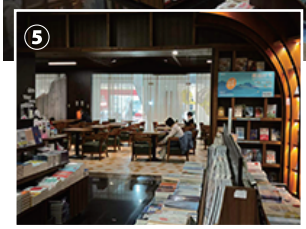
きれいな書店があるというので、地下鉄を乗り継いで行ってみました。

1. 書店の名前は「鐘書閣」。ショッピングモールの一階にありました。（写真左上）
2. 店内は少々薄暗く、天井には鏡が張ってあるので、万華鏡の中に入ったような感じ。（写真上、中央）
3. 店内の一角。書店だけど図書館っぽい陳列棚。平積みの本もあります。
4. すてきな内装。本がアート作品のようでずっと眺めていられそうです。（写真右上）
5. 広い喫茶コーナーでは、買った本やサンプルとして置いてある本を読むことができるようです。販売されている本には、すべて透明カバーがかかっていて、開くことができません。
6. 「日本文学」のコーナーもありました。
7. 8. 「日本文学」の中には、中国語に翻訳された、おなじみの作家の作品がたくさんあります。
9. 漫画のコーナーにはこのようなものも。ここでも人気です！
10. せっかく来たので、私も一冊買いました！韓国のノーベル文学賞作家、韓江（ハン・ガン）さんの「素食者（菜食主義者）」。本を買うのはワクワクするものです。





③



⑤

profile　さねみつ　じゅんこ

岡山県出身　上海市在住　家族：夫、犬1匹、猫2匹。

1989年　大学卒業後、教育・福祉関係の仕事に就く。1997年 中国人の夫と結婚。
1998年　夫の赴任で上海に引っ越し、上海済経大学で中国語を学ぶ。
2000年　日本語教師の仕事に就く。
2005年　上海同済大学大学院入学。
2008年　卒業。
2008－2011年　病気治療のため日本に帰国
2011年　上海に戻り、夫の経営する会社の工場勤務　今に至る

⑩

⑨

⑧

⑦

⑥